



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2025年3月4日 No.856

**2025春闘・第2回団体交渉①（3月3日）
定期昇給は「昇給係数4」とすることが望ましいことを確認！
しかし経営側は「昇給係数4」とすることを断言せず**

<東日本ユニオンの主張>

- ・第3四半期決算は増収増益であり、「昇給係数4」とした中でベースアップの議論を行いたい。
- ・社員は今も「2係数」削られたと思っている。2020年入社の大卒社員が定期昇給のある55歳までを換算すると、定期昇給分だけで32年間で1,728,000円のマイナスである。その他、割増賃金等を考えればさらに生涯賃金に影響がでる。2020年度以前に入社した社員と2021年以降に入社した社員の定昇格差をどう考えているのか。
- ・定期昇給について社員は「昇給係数4」で生涯賃金を見ている。ベースアップの考えとは同列にならない。今の経営状況で「昇給係数4」以外はありあえない。
- ・定期昇給「昇給係数4」を実施しない理由はない。この場で実施を断言すべきである。

<経営側の主張>

- ・昇給係数は規定上「4以内」であり「4」が望ましいことである。
- ・2021年は5,000億円の赤字を抱えた中で中長期的な動向やコロナの状況を見て「昇給係数2」の判断であった。「昇給係数2」が良いとは思っていない。2023年の新賃金の回答時「コロナ禍の2年間における賃金引き上げの状況」ということも要素としてベースアップを行っている。
- ・社員の感情は理解するが、会社としては「削った」という認識ではなく合理的な差である。ベースアップを実施するならば、昇給係数は「4」であるべきだと考えている。
- ・現時点で定期昇給は「昇給係数4以内」としか示せない。実施については慎重に判断していく。